

放射線治療科 研修カリキュラム

【科の紹介】

放射線治療科は当院における放射線治療部門全体を担当している。放射線治療は、手術、化学療法とともにがん治療の3本柱のひとつであり、がん集学的治療の中で重要な役割を果たす。近年では放射線治療の高精度化が進み、治療成績は向上し副作用の軽減が得られるようになり、今後の超高齢化社会の中で放射線治療の適用患者数は更に増加すると予想される。当施設は日本医学放射線学会・専門医修練機関に認定され、日本放射線腫瘍学会認定施設でもある。専用の治療計画CT、バリアン社製治療装置2台が設置されており、強度変調放射線治療・定位放射線治療等の高精度治療を行っている。当院の特徴は頭頸部癌が多いことであり、頭頸部癌に対する浅側頭動脈からの動注療法を行っており、本手技の研修も可能である。

がん治療に携わる志をもつ医師は、集学的治療を考える良い機会となるため1週間の研修から対応する。但し、複数の研修医を同時に受け入れることが出来ないためスケジュールの調整を研修センターと相談のうえ行うこと。

A. 一般目標

手術、化学療法とともにがん治療の3本柱のひとつである放射線治療について理解を深める

B. 行動目標

1. 放射線治療の適応を考え、放射線治療の効果および合併症が理解できる。
2. 他科の医師と治療方針について検討できる。
3. 急性期の合併症に対して理解し、専門職スタッフと対処療法を検討し、患者にセルフケアの指導ができる。
4. 放射線治療計画を通じて、専門職スタッフと放射線に対する知識を深める。
5. 適切な病歴聴取ができ、系統的な身体所見がとれる。
6. 各種画像検査を読影し、腫瘍の進展範囲を判断できる。
7. 頭頸部癌に対する動注療法の特徴と放射線治療との併用による効果と合併症を理解できる。
8. 他科との合同カンファレンスに出席し、がん集学的治療を理解できる。
9. 放射線治療計画を行うことで、正常画像解剖を理解できる。

C. 指導体制

1. 放射線治療科医師は指導責任者として、ローテーション期間を通して研修の責任を負う
2. 患者の診察、検査、治療に関する直接的指導は主治医(指導医)が行う。
3. 定期的に研修医の研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修医に指示を与えるか直接指導を行う。

D. 研修方略

1. オリエンテーション
 - 1) 研修カリキュラムの説明
 - 2) 科の概要
2. 放射線治療
 - ・指導医とともに放射線治療の適応、放射線治療の効果・合併症について検討する。

- ・指導医とともに他科の医師と治療方針について検討する。
- ・急性期の合併症について、専門職スタッフと対処療法を検討する。
- ・指導医とともに放射線治療計画を立てる。

3. 読影

- ・指導医とともに各種画像検査を読影し、腫瘍の進展範囲を確認する。

【カンファレンス・勉強会】 ※下記参照
他科との合同カンファレンスに出席すること。

【週間スケジュール】

	午 前	午 後
月曜日	放射線治療(初診・再診) 治療計画	放射線治療(初診・再診) 治療計画もしくは動注カテテル留置術
火曜日	放射線治療(初診・再診) 治療計画	放射線治療(初診・再診) 治療計画もしくは動注化学療法
水曜日	放射線治療(初診・再診) 治療計画	治療計画
木曜日	放射線治療(初診・再診) 治療計画	放射線治療(初診・再診) 治療計画
金曜日	放射線治療(初診・再診) 治療計画 科内カンファレンス	放射線治療(初診・再診) 治療計画もしくは動注化学療法

【定例研修会等】

会名	世話人	開催数	会場
がんチーム医療研究会	中瀬一則	年2回	津
三重がん放射線治療研究会	野本由人	年1回	津

E. 研修評価チェックリスト

- 放射線治療の適応を考え、放射線治療の効果および合併症が理解できる。
- 他科の医師と治療方針について検討できる。
- 急性期の合併症に対して理解し、専門職スタッフと対処療法を検討し、患者にセルフケアの指導ができる。
- 放射線治療計画を通じて、専門職スタッフと放射線に対する知識を深める。
- 適切な病歴聴取ができ、系統的な身体所見がとれる。
- 各種画像検査を読影し、腫瘍の進展範囲を判断できる。
- 頭頸部癌に対する動注療法の特徴と放射線治療との併用による効果と合併症を理解できる。
- 他科との合同カンファレンスに出席し、がん集学的治療を理解できる。
- 放射線治療計画を行うことで、正常画像解剖を理解できる。